

誇れる北中の実現 できる! だれでも! どこまでも!

大津の北に燦然と! 授業頑張ります!

中間テストを青森のナマハゲよろしく「寝る子はいねがー!」と見て回りました。教科は英語で、始めて20分経過時点です。結果、1年生ゼロ! 2年生2名! 3年生2名! でした。でも、寝てた4名は当然起こされていました! 写真は全員ギラギラの1年生です。



六月一日、本校校内研究の授業研究会を行いました。その四つの授業を紹介します。

○一年五組(理科)：犬童莉恵教諭

動物の体のつくりの共通点を相違点を観察します。現物のカタクチイワシとシバエビを解剖して観察するという、理科好きにはたまらない内容です。犬童教諭は明るくよく通る声で明確かつわかりやすい指示を出し、返事が必要な時は「返事は?」とにらみも聞かせ、しつても忘れません。授業者の気合を感じてか、生徒たちはとても張り切っていて、犬童教諭の問いかけに競い合うように反応する一年生の良さが光る授業でした。



生徒の反応を華麗にさばく犬童教諭

○二年六組(数学)：中野裕大教諭

連立方程式の導入に、二〇体のキタリユウを一回の移動につき一体ゾーンにと二体ゾーンのどちらかに移動させ、移動回数でそれぞれのゾーンに何体あるかを当てるゲームをしました。わからないというリクエストに見えます。「何で何で?」という好奇心の問いかけと、身振り手振りの熱っぽい説明で教室は沸きました。魅力的な課題に出会うと生徒は自然に話し合うということが、ここで証明されました。中野教諭もしてやっつかりの顔をしていました。*キタリユウは大津北中のキャラクターです。



ほくそ笑む中野教諭

○二年三組(英語)：矢野多希教諭

ifの用法を理解し、教科書の本文を読み取る授業です。この授業ではポイントを押さえた後、

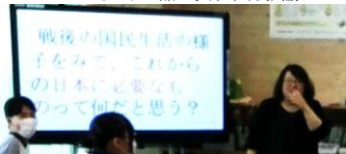
メラメラコース(一人黙々)とキラキラコース(教え合い)の二コースに分かれて学びを深めます。個別最適化の学びです。しばらくすると、課題が終わった生徒二名がAT(アシスタントティーチャー)として登場しました。二人で打合せをする姿が手慣れていきます。そのうち矢野教諭が三体いるような状況に発展するかもしれません。(最終的にATは十名だったそうです)



三体になる前の矢野教諭

○三年二組(社会)：中村綾子教諭

めあては「『法・教育・政治』の三つから戦前と戦後を比較しよう」という、大人も思わず「ムズ」と声が漏れるような歴史の内容です。生徒にとってその感覚は大人以上で、それでも何とか食らいついて自分のが分かる範囲で学びを進めていた様子でした。中村教諭は、とにかく机間指導に集中して一人一人に声をかけ、アドバイスし、認め、褒め、時にやさしく、時に強く励まします。その姿に、生徒への愛情を感じました。



いつもより上品に笑う中村教諭

保護者の学校評価において、「学校は『確かな学力』の育成に十分取り組んでいる」の項目(四点満点)は、R6が二・六九、R7が二・七八でした。いずれの年も評価項目中一番厳しい数値で、我々にとって大きな課題であると認識しています。これからも、分かる、学びが楽しい授業づくりに全力で取り組んで参ります。